

## 「私」には「私の治療法」。乳がん治療は、“オーダーメイド”医療です。



乳腺外科 院長 橋本 政典（はしもと まさのり）

【主な経歴】  
昭和 62 年東大分院外科（東大第三外科）  
平成 12 年国立がんセンター中央病院乳腺外科  
平成 13 年東京大学医学部附属病院乳腺内分泌外科  
平成 15 年国立国際医療センター（NCGM）外科  
平成 30 年より当院勤務

【主な資格】  
日本外科学会 外科専門医・指導医  
日本乳癌学会 乳腺専門医  
日本超音波医学会 超音波専門医・指導医  
がん診療緩和ケア研修会修了  
マンモグラフィ読影認定医  
乳がん検診超音波検査実施・判定医  
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師  
日本乳腺甲状腺超音波医学会評議員

### 女性にとって身近な「がん」といわれる乳がんですが、そもそもどんな病気なのでしょう。

乳がんは、乳房の中にある「乳腺」にできる「がん」です。乳房は、母乳を作る乳腺組織と、それを支える脂肪や線維などの組織から成り立っています。その乳腺の細胞が何らかのきっかけで異常に増え続けるようになったものが乳がんです。女性がかかるがんの中では最も多いがんで、日本では特に40代から60代に多いのが特徴です。家庭でも社会でも中心となっている年代に多い病気です。

### 子育てや介護、仕事など、それぞれの立場で忙しい毎日をご過ごされている時期ですよね。

そうですね。子育てや介護、仕事に追われる毎日で、ご自身のことはつい後回しになってしまう方が多いと思います。でも、そういう時期だからこそ、ほんの少しでも自分の体に目を向ける時間を持つことが大切です。

### 忙しい毎日の中でも、自分の体の変化に気づくために、日頃から心がけておくべきことはありますか

「ブレスト・アウェアネス」という考え方があります。

- 1) 自分の乳房の状態を知る
- 2) 乳房の変化に気をつける
- 3) 変化に気づいたらすぐ医師へ相談する
- 4) 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

日頃から自分の乳房を見て、触れて、変化に気づく習慣をもちましょう。月に1回、入浴時などに確認するだけでも構いません。

### 見て、触ってみて、どのような症状があれば受診すべきでしょうか。

代表的なのは、痛みのないしこりです。その他、乳頭分泌・乳頭びらん（変色・じくじくする）、乳頭陥没（徐々に引き込まれてきたなど）、皮膚のえくぼ症状・ひきつれ・発赤・潰瘍、乳房非対称、また、乳房の一部が他の部分に比べてやや硬いといった場合も乳がんであることもあります。ほとんどの場合痛みを伴わず、日常生活には困らないため

注意が必要です。

### 胸に異変を感じたら、どの科を受診すればいいのか迷います。

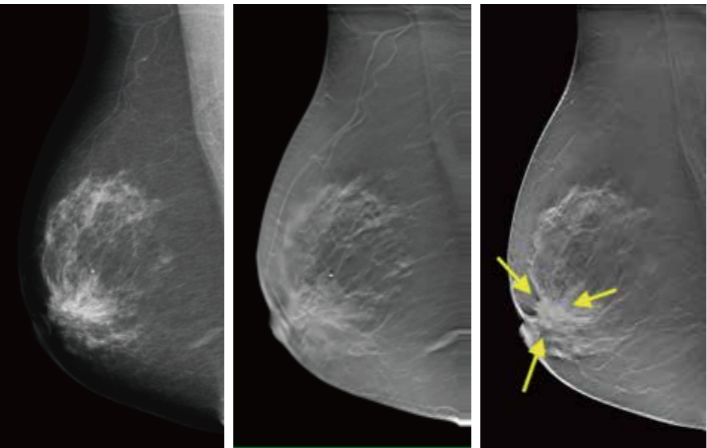
胸のしこりや違和感を感じたら、婦人科ではなく、「**乳腺外科**」を受診してください。わかりづらいところですが、乳がんは外科の領域なんです。「乳腺外科」に相談することが一番早く、確実です。

### 乳腺外科ではどのような診療が行われますか？

さまざまな乳房の症状に対して、主にマンモグラフィーと超音波診断装置（エコー）を用いて診断を行います。

### マンモグラフィって、聞いたことあります。胸を挟んでぎゅー、、、？

乳房を板で圧迫して撮影するレントゲン検査です。40歳から始まる対策型乳癌検診で広くおこなわれており、石灰化が主な所見である早期乳癌の発見に威力を発揮します。また、乳がんの手術の際に問題となる広がり診断にも有用です。当院にはデジタル3Dマンモグラフィーが導入されており外来で直ちに読影できるため迅速かつ精密な診断が可能です。



診断が難しい乳頭直下の乳癌

通常マンモグラフィー(左) ではわかりにくいがんも3D(中央、右) で見るとわかり易くなります

### 乳房超音波検査についても教えてください。

はい。この検査は超音波で乳房の断面の画像をみます。超音波検査では腫瘍がはっきりと見えることが多く、マンモグラフィーより腫瘍の性質を区別することができます。人間ドックではこのエコーを併用することも多く、被曝などの害を受けないので妊婦さんや若い方にも安心して検査をしていただけます。当院では、血流を確認するフローイメージングや、組織の硬さを評価するエラストグラフィーなどの機能を備えた機器を使用しています。それらの機能を活用して得られた情報を総合的に判断し、より精度の高い診断に努めています。

### 検査で何か見つかったら、すぐにがんなのでしょう。

これらの検査でがんが疑わしいということになると、さらに詳しい検査をしていきます。詳しい検査が必要と言われる方は約4～5%ですが、実際にがんが見つかるのはそのうちのごく一部です。過度に恐れず、きちんと精密検査を受けることが大切なんですよ。

### 小さながんも早い段階で見つけれないと聞くとドキドキしますが、それだけ早く治療につながると思うと前向きになれます。精密検査についても教えてください。

乳がんが疑われた場合は、しこりの一部を採取して詳しく調べます。

### ■ 組織を取る検査（針生検・VAB）

以前は、しこりの一部を手術で切り取らなければ詳しい検査ができませんでした。現在は、数ミリほどの針を使って、しこりの「組織」を採取できるようになっています。組織をしっかりと取ることによって、がんかどうか、どんながんのタイプか、どの治療が合っているか、まで詳しく調べるこ

とができます。最近では、手術の前に抗がん剤治療を行うことも増えているため、治療方針を決めるために十分な量の組織を採取できる方法（吸引式の針生検：VAB）を行うことが多くなっています。

### ■ 細胞を取る検査（細胞診）

細胞診は、細い針を使って、しこりの中の「細胞」や「液体」を少量採取する検査です。採血より細い針を使い、超音波で位置を確認しながら行います。小さなしこりや、わきの下のリンパ節などを調べるときにも使われます。

### これのがんという診断がついた後、治療はどのように決まりますか。

がんの大きさ、リンパ節転移の有無、遠隔転移の有無などからステージを決定します。また、がん細胞の性質も重要で、ホルモン受容体陽性、HER2陽性、トリプルネガティブなどに分類されます。それぞれに最適な治療法があるからです。

### がん細胞の「性質」によって治療方法が違うということですか？

同じ乳がんでも、増え方や反応する薬が違います。たとえば、女性ホルモンの影響を受けるタイプなのか、HER2というたんぱく質が多いタイプなのか、あるいはそのどちらでもないタイプなのかによって、効きやすい治療が変わってくるんです。

### そうなんです。知らなかったです。それではがんの個性を正確に調べる必要がありますね。

はい、その通りです。手術で取り出した組織の細胞の状態を顕微鏡で確認し、ホルモン受容体や HER2の有無などを検査します。これによって、そのがんがどの治療に反応しやすいのかが分かります。

### 乳がんは「一つの病気」のように見えて、実は、中身がさまざまなんですね。

乳がん治療は、すべての方に同じ治療を行うわけではありません。がんの性質や進行度に応じて治療法を選択する、いわば“オーダーメイド”に近い医療です。そのため、まずがんのタイプを正確に分類し、ガイドラインに基づいた標準治療を土台としながら、その方に最適な治療を組み立てていきます。

### 「私」には「私の治療法」があるんですね!?

そうですね。また、治る可能性が高い段階なのか、長く付き合っていく治療が必要なのかも、方針は大きく変わります。実際には、お身体の状態やご家庭・お仕事などの状況も伺いながら、その方にとって無理のない最善の治療と一緒に考えていきます。



### 乳がんには種類があると聞きましたが、どんな違いがあるのですか？

乳がんは大きく分けると「非浸潤がん」と「浸潤がん」があります。非浸潤がんは、乳管の中にかん細胞がとどまっている段階です。この段階で見つかければ、適切な治療で治癒が期待できます。一方、浸潤がんは乳

## JCHO 東京山手メディカルセンター 乳腺外科

管の外に広がっている状態で、血管やリンパ管を通じてほかの臓器に転移する可能性が出てきます。ただし、浸潤がんであっても早期に治療すれば、多くの場合で治ることが期待できます。

### その治療というのは、手術、、ということですか？

手術は、がんを取りきれんと考えられる場合に行います。乳房の手術には「乳房を全部取る手術」と「乳房を残す手術」の2つの方法があります。がんの広がり、乳房の大きさ、放射線治療が可能かどうか、ご本人の希望などを聞いて総合的に判断していきます。



### がんがわきの下のリンパ節へ転移しているかどうかの確認は、、、？

乳がんは、わきの下のリンパ節に転移することがあります。まずは「見張り役」となるリンパ節（センチネルリンパ節）を調べます。センチネルリンパ節に転移があるかどうかは、今後の治療方針を決める大切な手がかりの1つとなります。転移がなければ、それ以上リンパ節を取ることはありませんが、転移があると、わきの下のリンパ節をまとめて取る手術を行うこともあります。そしてリンパ節転移の個数で、また治療方針が変わってきます。

### がんを取り除くということは、乳房を失う、ということですか？

当院では、乳房再建に関わる形成外科医と連携しています。乳がんの手術と同時に「同時再建」だけでなく、術後しばらく経ってから行う二次再建にも対応していますので、ご希望があればご相談ください。また、乳房温存手術では、がんの部分だけを取り、乳房をできるだけ残します。原則として、手術後は放射線治療を行います。また、病状によっては抗がん剤治療を行うこともあります。

### 手術後も治療が続くんですね。

はい。再発リスクに応じて放射線治療や薬物療法を行います。当院には外来化学療法室があり、がん化学療法看護認定看護師が在籍しています。副作用管理や生活相談などに対応しています。詳しくは次のページでご紹介いたします。

### 今日はお忙しい中、お話をありがとうございました。

ありがとうございました。

今日は橋本先生のお話を伺い、乳がん治療は決して“その場限り”の医療ではないという奥深さを感じました。正確な診断のもと、ガイドラインに基づいて「私には私の治療法」を選んでくれる。そして、その先のリンパ浮腫ケアや乳房再建、こころの支援まで、専門チームが長く寄り添い続けてくれる体制がある。もし、ある日お風呂上がり鏡に映った自分の胸に「あれ?」と思う瞬間があったなら。私は迷わず乳腺外科を訪ねるでしょう。そして、不安で揺れる自分ごと、そのまま橋本先生に預けたいと思います。

## 「治療で終わらせない」チーム医療がここにはあります。

がん治療は、手術や薬物療法で終わるものではありません。術後の合併症予防や副作用への対応、生活面の支援までを含めて支える体制が当院には整っています。医師・看護師だけでなく、リンパ浮腫療法士、がん化学療法看護認定看護師、精神専門看護師、ガン性疼痛看護認定看護師、形成外科医、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士など多職種が連携しあなたを支えます。治療が「点」で終わるのではなく、「生活の中で続けられる医療」となるよう、チームでサポートしています。

## リンパ浮腫外来

— 乳がん術後を長く支える専門ケア —

### ■ リンパ浮腫とは

乳がんの手術において、特に腋窩リンパ節郭清後では、リンパの流れが滞ることで腕がむくむことがあります。発症率は郭清範囲にもよりますが、約5～20%と言われています。発症すると完治は難しいと言われておりますが、早期介入でコントロールが可能な場合もあります。発症は術後早期だけでなく、数年後に現れることもあります。症状としては、腕の左右の周径差のある浮腫、だるさや張り感、硬くなった皮膚、感染して腫れてしまうといったことがあります。

### ■ 早期介入の重要性

リンパ浮腫は、進行すると硬化・感染リスクが高まります。一方で、早期から介入することで悪化を防ぐことが可能です。「むくみかもしれない」と感じた時点での受診が、最も重要です。

### ■ リンパ浮腫療法士とは

わたしたちリンパ浮腫療法士は、専門研修を修了し、複合的理学療法（CDT）を実践できる医療者です。受診時に浮腫や皮膚の状態を観察・計測し患者さんに合ったケア方法を指導しています。具体的には医療用着圧スリーブの使用方法、包帯の巻き方、日常生活の注意点、セルフケア（スキンケア・運動療法など）の指導、手動的リンパドレナージを実施しています。乳がん治療は、



乳腺外科の診療は毎日行っております。

午後の受診・新宿区乳癌1次検診をご希望の場合は必ず電話予約をして下さい(代表:03-3364-0251)。

原則当日受付は11時までですが、他診療の都合が許す限りご対応いたしますので、些細なご相談もお寄せください。

診療時間(受付時間)	月	火	水	木	金
午前(8:30～11:00)	久保田啓介	工藤宏樹	伊地知正賢	橋本政典	工藤宏樹
午後(要予約)	-	-	-	-	工藤宏樹

手術や薬物だけで終わるものではありません。わたしたちリンパ浮腫療法士は、患者さんが術後に日常生活を安心して送れるよう、継続的に支援します。

## 外科化学療法室

— 乳がん治療を安心して受けていただくために —

### ■ 乳がんの化学療法とは

乳がんの化学療法は、抗がん剤や分子標的薬などを用いてがん細胞の増殖を抑える治療です。手術の前にかんを小さくする目的で行う場合や、手術後の再発を予防する目的で行う場合があります。現在では多くの治療が外来で受けられるようになり、仕事や家庭生活と両立しながら治療を続ける方も増えています。



### ■ がん化学療法看護認定看護師とは

わたしたちがん化学療法看護認定看護師は、抗がん剤治療を受ける患者さんが、安全に安心して治療を継続できるよう支援しています。治療が安全に行われるよう管理するとともに、副作用の予防や早期対応、治療や生活に関する説明や相談への対応を行っています。乳がん治療は、外見の変化や生活への影響も大きいので、患者さんの気持ちに寄り添いながら支援することを大切にしています。

### ■ 外来化学療法室でのサポート

外来化学療法室では、安全な治療体制のもと点滴治療を行うとともに、乳がん患者さんへの外見ケアにも力を入れています。脱毛や皮膚・爪の変化に対するセルフケアの説明やウィッグなどの情報提供を行い、外見の変化による不安に寄り添っています。また、手術後の補正下着や乳房補整パッドの紹介など、術後の生活を支える支援も行っていきます。